

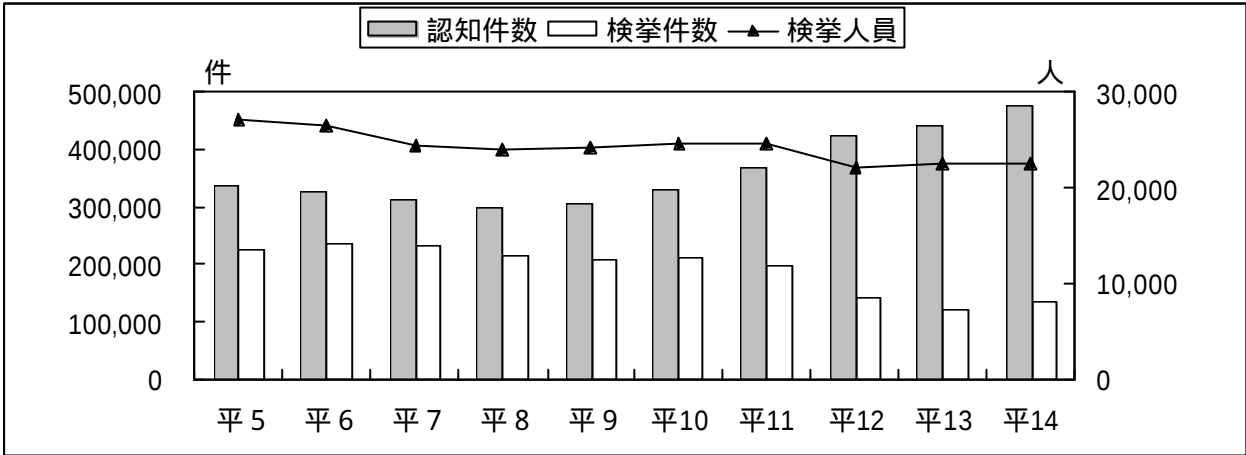
3 重要窃盗犯

(1) 重要窃盗犯の認知及び検挙状況

平成14年中の重要窃盗犯の認知件数は47万8,476件、検挙件数は13万3,960件、検挙人員は2万2,425人である。認知件数は増加傾向にあり、10年間で約14万件増加している。減少傾向にあった検挙件数は、14年に増加に転じた。検挙人員は2万人台で推移している（図表1 - 21）。

手口別にみると、すりは2万件台で推移し、自動車盗は14年に増加傾向に歯止めがかかったが、他の手口では増加傾向にある。特に侵入盗の増加が大きく、最近5年間で約10万件増加している（図表1 - 22）（ひったくりの状況については、3、22ページ参照）。

図表 1 - 21 重要窃盗犯の認知・検挙状況の推移（10年間）



年次 区分	平 5	平 6	平 7	平 8	平 9	平 10	平 11	平 12	平 13	平 14
認知件数	336,235件	325,987	313,922	301,310	305,328	330,369	367,174	423,281	443,502	478,476
検挙件数	224,499件	234,735	231,226	216,794	208,847	213,261	197,011	140,351	120,183	133,960
検挙人員	27,114人	26,475	24,423	24,023	24,213	24,533	24,533	22,126	22,493	22,425
検 挙 率	66.8%	72.0	73.7	72.0	68.4	64.6	53.7	33.2	27.1	28.0

図表 1 - 22 重要窃盗犯の手口別認知・検挙状況の推移

年次		平10	平11	平12	平13	平14
区分						
重要窃盗犯	認知件数	330,369件	367,174	423,281	443,502	478,476
	検挙件数	213,261件	197,011	140,351	120,183	133,960
	検挙人員	24,533人	24,533	22,126	22,493	22,425
	検 挙 率	64.6%	53.7	33.2	27.1	28.0
	侵入盗	認知件数	237,703	260,981	296,486	338,294
		検挙件数	165,818	152,984	109,128	89,456
		検挙人員	15,480	15,234	13,651	13,696
		検 挙 率	69.8	58.6	36.8	29.5
	住宅対象	認知件数	123,863	134,492	154,074	161,883
		検挙件数	87,351	82,373	57,893	45,752
		検挙人員	5,813	5,755	5,275	5,144
		検 挙 率	70.5	61.2	37.6	28.3
	その他	認知件数	113,840	126,489	142,412	141,815
		検挙件数	78,467	70,611	51,235	43,704
		検挙人員	9,667	9,479	8,376	8,568
		検 挙 率	68.9	55.8	36.0	30.8
	自動車盗	認知件数	35,884	43,092	56,205	63,275
		検挙件数	18,210	15,241	11,415	13,390
		検挙人員	5,495	5,028	4,590	4,933
		検 挙 率	50.7	35.4	20.3	21.2
	ひったくり	認知件数	35,763	41,173	46,064	50,838
		検挙件数	19,636	20,597	14,796	12,925
		検挙人員	2,605	3,304	3,072	3,078
		検 挙 率	54.9	50.0	32.1	25.4
	すり	認知件数	21,019	21,928	24,526	25,691
		検挙件数	9,597	8,189	5,012	4,412
		検挙人員	953	967	813	770
		検 挙 率	45.7	37.3	20.4	17.2

(2) 侵入盗の状況

平成14年中の侵入盗の認知件数は33万8,294件、検挙件数は9万8,335件、検挙人員は1万3,696人である。最近5年間の推移をみると、認知件数は増加傾向にあり、検挙件数は13年まで減少傾向にあったのが、14年には増加に転じた。検挙人員は1万人台で推移している(図表1-23)(2ページ 図表1-2参照)。

また、14年中のピッキング用具を使用した侵入盗事件の認知件数は1万9,121件である(図表1-24)。これを都市部(東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県、愛知県)についてみると、13年には大きく減少した東京都、神奈川県、千葉県のうち、神奈川県、千葉県では14年に増加に転じた(図表1-25)。

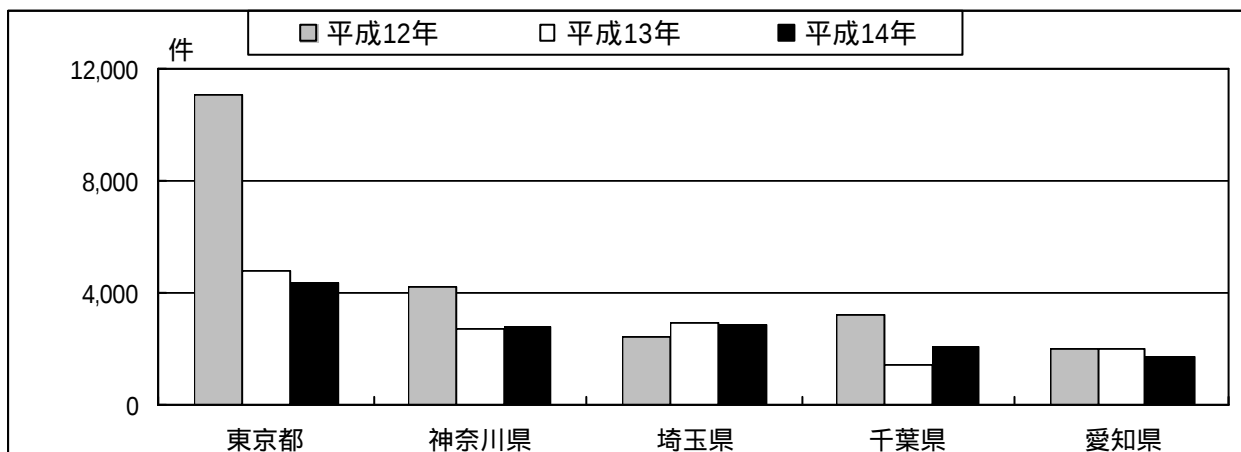
図表1-23 侵入盗の認知・検挙状況の推移

年次 区分	平10	平11	平12	平13	平14
認知件数	237,703件	260,981	296,486	303,698	338,294
検挙件数	165,818件	152,984	109,128	89,456	98,335
検挙人員	15,480人	15,234	13,651	13,712	13,696
検挙率	69.8%	58.6	36.8	29.5	29.1

図表1-24 ピッキング用具を使用した侵入盗の認知件数の推移

年次 区分	平12	平13	平14
認知件数	29,211件	19,568	19,121

図表1-25 都市部におけるピッキング用具を使用侵入盗の認知件数の推移



都県	東京都	神奈川県	埼玉県	千葉県	愛知県
平成12年	11,089件	4,184	2,429	3,186	1,972
平成13年	4,727件	2,645	2,942	1,428	2,030
平成14年	4,306件	2,796	2,850	2,057	1,703

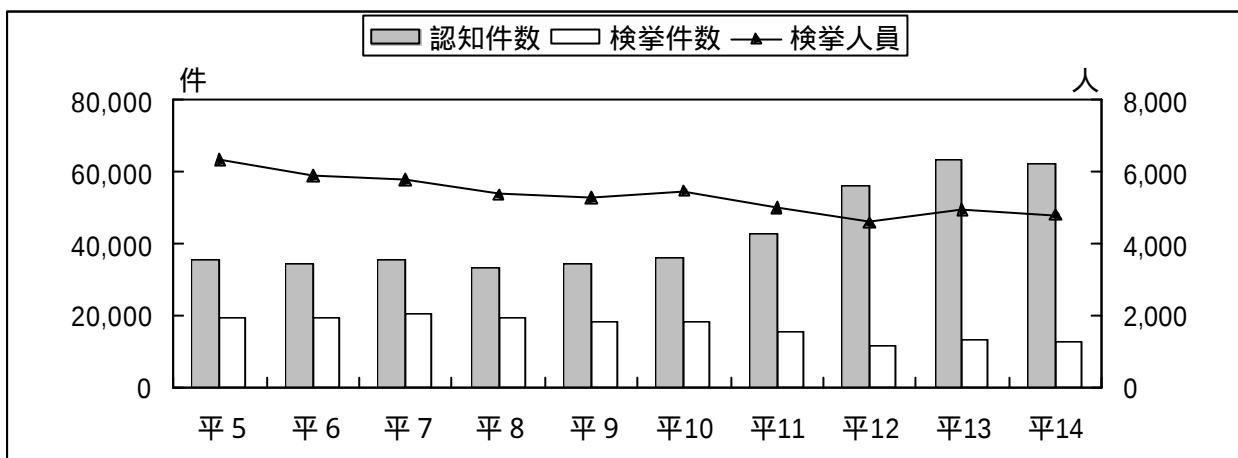
【事 例】主として一般住宅を狙った広域空き巣ねらい事件（警視庁）

男(63)は、平成12年11月ころから、主として一般住宅を対象に現金、貴金属等を目的として窃盗を繰り返していた。6月までに1都3県下にわたる空き巣ねらい等332件（被害総額1億1,256万円相当）について検挙、解決した。

(3) 自動車盗の状況

平成14年中の自動車盗の認知件数は6万2,673件、検挙件数は1万2,791件、検挙人員は4,775人である。認知件数は増加傾向にあったが、官民一体となった総合的な対策により、14年に一定の歯止めがかかりはじめたと考えられる（図表1-26）。

図表1-26 自動車盗の認知・検挙状況の推移（10年間）



年次 区分	平 5	平 6	平 7	平 8	平 9	平10	平11	平12	平13	平14
認知件数	35,648件	34,725	35,730	33,722	34,489	35,884	43,092	56,205	63,275	62,673
検挙件数	19,739件	19,717	20,821	19,264	18,291	18,210	15,241	11,415	13,390	12,791
検挙人員	6,331人	5,896	5,806	5,380	5,264	5,495	5,028	4,590	4,933	4,775
検挙率	55.4%	56.8	58.3	57.1	53.0	50.7	35.4	20.3	21.2	20.4

ア 被害額別の推移

平成14年中の被害額200万円以上の自動車盗の認知件数は1万8,625件で、自動車盗の全認知件数に占める被害額200万円以上の件数の比率は29.7%である（図表1-27）。

図表1-27 自動車盗の被害額別認知件数の推移

年次 区分	平10	平11	平12	平13	平14
認知件数	35,884件	43,092	56,205	63,275	62,673
うち被害額200万円以上	9,921件	14,764	20,758	21,062	18,625
被害額200万円以上の比率	27.6%	34.3	36.9	33.3	29.7

イ 被害車両の回復率の推移

平成14年中の被害車両の回復件数は1万9,422件で、自動車盗の全認知件数に占める回復件数の比率は31.0%である（図表1-28）。

図表1-28 被害車両の回復件数・回復率の推移

年次 区分	平10	平11	平12	平13	平14
認知件数	35,884件	43,092	56,205	63,275	62,673
回復件数	17,764件	16,512	16,914	19,579	19,422
回復率	49.5%	38.3	30.1	30.9	31.0

【事例】暴力団員と来日外国人が結託したロシア密輸出目的の組織窃盗事件（北海道）

暴力団幹部の男(34)は、ロシア人と結託し、北海道内で主としてRV車を窃取し、貨物船を利用してロシアに密輸出していた。2月までに、首魁を含む11名を検挙、自動車盗等125件（被害総額2億8,350万円相当）を解決し、窃盗組織を壊滅した。

(4) 組織窃盗事件

平成9年4月以降、組織窃盗対策を推進し、平成14年末現在で、各都道府県警察で組織窃盗事件として316事件を認定し、これまでに来日外国人や暴力団組員を含む被疑者3,867人を検挙し、6万3,420件（被害総額807億3,130万円相当）を解決している。

また、各都道府県警察が認定した組織窃盗事件のうち、特に重要な55事件を警察庁登録組織窃盗事件として登録し、全国警察に情報提供を求めるなど、組織壊滅を主眼とした捜査を強化し、うち45事件を検挙・解決している。

なお、平成14年中の窃盗犯検挙件数に占める共犯者がいる事件の割合をみると、全窃盗犯においては23.7%であるのに対し、来日外国人の共犯率は68.6%、暴力団組員等の共犯率は52.0%と高い割合を占めている（図表1-29）。

図表1-29 来日外国人・暴力団組員等による窃盗事件の共犯率の推移

年次 区分	平10	平11	平12	平13	平14
全窃盗犯	14.9%	16.6	19.1	21.8	23.7
来日外国人	46.6%	49.6	53.3	63.9	68.6
暴力団組員等	27.0%	33.1	37.7	45.9	52.0

【事例1】暴力団員等による質店・貴金属店等を対象とした広域組織窃盗事件（警察庁登録組織窃盗第40号事件）（兵庫、愛媛、高知、徳島、京都）

暴力団員の男(30)は、元暴走族等素行不良者を集めて窃盗組織を築き、西日本各地において、盗難車両で店舗に突入させるなどした上、高級腕時計、貴金属、ブランド商品等を組織的に盗み出していた。

2月までに、首魁を含む被疑者38名を検挙、1都15府県下にわたる出店荒し等1,111件（被害総額8億534万円相当）を解決し、窃盗組織を壊滅した。

【事例2】来日外国人グループによるピッキング用具使用の広域組織窃盗事件（警察庁登録組織窃盗第37号事件）（愛知、岐阜、山形、岡山）

中国福建省出身の男（27）は、中国人等を配下として、中部・関東地方を中心にピッキング用具を使用して侵入する金庫破りや空き巣ねらいを広域にわたって敢行していた。

1月までに、首魁を含む被疑者30名を検挙、1都23府県下にわたる金庫破り等579件（被害総額5億6,696万円相当）を解決し、窃盗組織を壊滅した。

【事例3】海外輸出目的の建設用重機を対象とした広域自動車盗事件（警察庁登録組織窃盗第39号事件）（静岡）

男（58）は、暴力団員や来日外国人と窃盗組織を築き、関東・中国方面を中心に油圧ショベルを対象とする窃盗を組織的に敢行していた。

2月までに、首魁を含む被疑者27名を検挙、1都13県下における建設機械を対象とした自動車盗等73件（被害総額7億7,004万円相当）を解決し、組織を壊滅した。

【事例4】中国人らグループによるスーパー等の量販店を対象とした広域金庫破り事件（警察庁登録組織窃盗第46号事件）（静岡、長野、山梨、岐阜、愛知、三重、滋賀、香川）

男（27）は、不法入国した中国人等と、名古屋及び横浜を拠点として、それぞれ窃盗組織を築き、東北から中部、四国に及ぶ広域にわたり、主としてスーパーマーケットを対象として短時間のうちに金庫ごと搬出する方法で窃盗を繰り返していた。

9月までに、首魁を含む被疑者30名を検挙、1都5管区13県下における金庫破り等304件（被害総額7億673万円相当）を解決し、組織を壊滅した。

(5) 建設機械等を使用したATM等を対象とした窃盗事件

平成14年に入り、建設機械等を使用して現金自動預金支払機（ATM）等を機械ごと盗み出し、さらに機械内から現金を盗むという大胆な窃盗事件が多発した。全国における発生状況について調査した結果、平成14年中は57件（前年比48件増）の発生があった（図1-30）。

図表1-30 建設機械等を使用したATM等を対象とした窃盗事件の発生件数の推移

区分 \ 年次	平13	平14
	9件	57

【事例】建設機械を使用したATM等を対象とした窃盗事件（大阪）

男（38）他4名は、6月、大阪市内において、窃取した油圧ショベル等を使用してATMを破壊し、現金約490万円を窃取した（11月21日検挙）。